

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 16日	～	令和7年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 16日	～	令和7年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和7年 12月 16日	～	令和7年 12月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	組織的なバックアップ体制による、多角的な視点を持った支援の展開	訪問員個人の判断に委ねるのではなくスタッフ全員が対象児童の情報を共有し組織として支援方針を決定する体制を構築している。訪問実施後に事業所内でケース会議をおこない訪問先での様子や支援の成果を協議している。これにより事業所全体で支援の方向性を統一し、担当者による偏りのないより客観的かつ効果的なアプローチの提供に努めている。	訪問時にチェックすべき項目を共通のフォーマットにし誰が訪問しても同水準のフィードバックができる仕組みを作っていく。
2	多職種連携による多角的な視点を生かした、専門性の高い巡回支援の実施	保育士、児童発達支援管理者といった異なる専門性を持つスタッフが密に連携し訪問支援を行ってきた。身体機能や感覚面のアプローチまたは集団生活や発達の特徴などそれぞれの知見を出し合うことで、対象児童の特性を多角的に分析し、訪問先の環境調整や具体的ななかかわり方についてすぐ実践できる専門的かつ具体的なアドバイスを行うよう努めている。	専門領域別の勉強会を開催しスタッフ間で知識のボトムアップを図る。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問先との定期的なカンファレンスの実施	訪問先との日程調整が難しく、訪問後にすぐに開催できるわけではない。	ZoomなどICTツールの活用を検討した振り返りの時間の確保。
2	専門的知見の集約と客観的な評価に基づく提案力の不足	各専門職の経験を統合した独自の評価指標を作成し、訪問先施設に対してより根拠に基づいた環境改善提案ができる体制を強化して行きたい。	客観的に評価するための共通のチェックリストや評価シートの作成。
3			

公表

保護者からの事業所評価の集計結果

事業所名 みらいスイッチ神埼第二(保育所等訪問)

公表日 令和 8 年 3 月 6 日

利用児童数 1

回収数 1

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	訪問支援に使用する教具教材が整えられていますか。	1					
	2	プライバシーに配慮された面接室等が整えられていますか。	1					
	3	事業の目的が適切に説明されていると思いますか。	1					
	4	保育所等訪問支援の頻度や時間について、相談の上決定されていますか。	1					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどもの状態に応じた支援が提供できる職員（職種や人数）体制だと思えますか。	1					
	6	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、保育所等訪問支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1					
	8	保育所等訪問支援計画（個別支援計画）には、訪問先施設や担任等の意向が盛り込まれていると思いますか。	1					
	9	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1					
	10	保育所等訪問支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1					
	11	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先施設に配慮した支援が行われていると思いますか。	1					
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	1					
	13	「保育所等訪問支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	1					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行なわれていますか。	1					
	15	必要なときにこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況、課題について共通理解ができていると思いますか。	1					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1					
	18	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1					
	19	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1					
20	事業所は、訪問先施設からの相談等に適切に応じ、必要な助言と支援が行われていると思いますか。				1		訪問先施設からはお子さまの様子について相談を受ける機会があり、それに対して事業所での成功例や有効な支援方法を積極的に共有、助言している。	

	21	保育所等訪問支援を実施した際に、訪問先施設と訪問支援の内容について話し合いが行われていると思いますか。	1				
	22	保育所等訪問支援を実施した際に、保護者に対して適切に共有がなされていると思いますか。	1				
非常時等の対応	23	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	1				
	24	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1				
	25	事業所では、緊急時の対応について訪問先施設と連携し、実践できるようにしていると思いますか。	1				
満足度	26	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1				
	27	子どもは訪問支援を嫌がっていませんか。	1				
	28	事業所の支援に満足していますか。	1				

公表

訪問先施設からの事業所評価の集計結果

事業所名

みらいスイッチ神埼第二

公表日 令和8年3月6日

利用児童数 1 回収数 1

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		みらいスイッチ神埼第二(保育所等訪問)		公表日 令和8年3月6日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点
環境・ 体制・ 整備・ 運営	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	2		要望があれば準備をおこなう。	
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	2		訪問は2人体制で行う。	
業務 改善	3	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	2			同事業所内のスタッフに対して周知を徹底し継続的な改善につなげる。
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2		利用者が少なく、すぐに把握できる環境である。	
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2		職員会議、面談により把握に努めている。	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		2	現時点では未実施。専門的かつ客観的な立場からの評価は必要と考えている。	
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	2		年間計画に基づいて毎月、研修をおこなっている。	外部の専門的な研修への参加も積極的におこなっている。
適切 な 支 援 の 提 供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	2		子ども、保護者に対してアセスメントを行い職員からの聞き取りも併せて計画に反映させている。	
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	2		職員にも聞き取りを行い、一人ひとりのニーズに合わせた計画になるよう検討を重ねている。	
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	2		連携し意向に添うものになるよう留意している。	
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2		ミーティング時に共有し、計画書も職員が見ることが出来るようにしている。初年度ということもあり職員にも研修で周知しつつ行っている。	
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2		医療機関においてウェクスラー式や田中ビナーをおこなっているため、資料として提出してもらっている。アセスメントの精度をあげるため、ツールの使用は重要と考えている。	
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	2		集団生活の場で適切に過ごせるよう、アセスメントを行ったうえで支援目標に向けた支援内容を設定している。	
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2		ミーティング時に共有し、計画書も職員が見ることが出来るようにしている。初年度ということもあり職員にも研修で周知しつつ行っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2		毎日ミーティングをおこない、打ち合わせや確認をおこなっている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2		振り返りのミーティングを必ずおこない、日報として記録し、全員共有できるようにしている。	
17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	2		訪問先の保育、教育方針、ルールを尊重する。事前に訪問先の職員の方と情報共有を行い、理解を深めている。		
18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	2		その日のうちに記録を行い職員で検証をおこなっている。		

関係機関や保護者との連携	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	2		児発管を中心にモニタリング、見直しを行っている。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	2		児発管が主体的に関わっている。	
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2			子どもの発達を多角的に支えられるよう連携による支援体制を強化していく。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2		対象児童が就学ではないためまだ行っていないが、入学前に学校を訪問し環境の確認や支援方法についての話し合いをおこなってきたい。	
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	2			地域の児童発達支援センターの研修への職員の参加を促し、支援の質の向上を図っている。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。		2	関係機関にたずねたところ、地域に協議会がないとのことだった。	機会があれば参加を検討。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	2		連絡帳だけでなく、送迎時にその日の様子、課題についての報告をおこなっている。	
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2			ペアトレ実施機関の紹介やペアトレ養成講座の受講をすすめていく。
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	2		見学時、契約時と数回おこなっている。	
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	2		訪問支援の目的や流れをまとめたパンフレットを作成し、事前に配布している。	
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	2		計画変更時のアセスメントだけではなく、日頃より対面で話す機会を設けている。	
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	2		児発管が必ず対面で行い、同意を得よう心掛けている。HUGと紙面の両方で確認していたできるようにしている。	
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	2		悩み等、相談していただけるよう普段より保護者とのコミュニケーションを重視している。相談を受けた場合、解決策の提案やよりよい助言ができるようスタッフ間で話し合っている。	
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		2		今後、開催を望む声があれば検討していきたい。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	2		疑問質問に対してスタッフ間で共有、検討し迅速に対応することを心掛けている。	
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	2		月1回、お便り、イベント表を発行し郵送している。併せてSNSでの発信を行っている。	
訪問先施設への	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2		SNSの投稿は特に細心の注意を払っている。書類は施錠し保管している。	
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	2		直接、電話、HUGなど対象者によって手段を検討している。	
	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	2		適切な対応策をチームで検討。必要であれば専門家の助言を提案する。	
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	2		3回訪問ごとにカンファレンスを予定している。	
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	2		記録を作成し、報告を行っている。	

説明等	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2		SNSの投稿は特に細心の注意を払っている。書類は施錠し保管している。	
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	2		相談内容を正確に把握し、必要に応じて助言、情報提供を行うようにしている。	
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2		スタッフは研修、訓練を行っている。	玄関に掲示はしているが周知は不十分である。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2		設備の安全点検も定期的を実施し、子どもへも安全指導している。	
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	2		事例を事業所全体で共有し、要因を分析し必要な対策を講じ、再発防止に努めている。	
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	2		社内研修に加え、外部講師にも講義を依頼している。	
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	2		身体拘束をおこなうことはないが、事前に説明している。	